



発行日2018. 7. 23

生活クラブ連合会  
TEL:03-5291-6700  
FAX:03-5285-1839

★春の援農作業には延130人が参加。たくさんの感想が届きました！

●「今年も最高のはちみつがとれました！」採蜜援農（株）スリーエイト

・私以外の参加者は大ベテラン。受入先のお二人を加えた男性陣の合宿生活は皆さんの人柄の良さもあって和気藹々の大変楽しいものでした。作業への不安もありましたが、新人ゆえの補助的作業が主体で、何とかこなすことができました。（神奈川、60代男性）

・長野県安曇野や白馬地方での作業で、自然大好き人間にとっては最高の環境です。また今注目されている蜂によるイチゴなどの受粉の重要性など、蜂や農業そして世界の蜂蜜などの話を専門家から直接聞くことができました。また提携養蜂家の方が高齢や亡くなって廃業したり、後継者が受粉に主体を置き採蜜が少なくなるなど国産蜂蜜の置かれている環境は厳しくなるように思えます。価格も高くなり、あまいダイヤと言われるようになるかもしれません。場所や日時そして検査などきっちと管理されている生協の蜂蜜は、増々貴重な蜂蜜に。援農に参加した自分も嬉しくなります。（東京、60代男性）



工場でヘタとり作業

●「ぷちぷちっという音が心地いい！」ジャム用いちごの収穫とヘタ取り（日本果実工業（株））

・作業現場を見、実際の作業を体験することにより、消費材の生産過程における「労力」を体感できました。『いちごジャムもみかんジュースも、加工原料の生産農家が年々減少し、企画回数も容量も低減化せざるを得ない現状』と日本果実工業の方から説明されて「利用結集より就農者送り込み（自ら就農できないなら）」が大命題と思いました。日本果実工業の工場では、安全な製品を作るため 神経を張りつめての立ち作業を続ける「しんどさ」に頭が下がる思いでした。（東京、60代男性）

●「合鴨と苗の成長を合わせることが秘訣！」合鴨農法有機米のネット張り（JA加美よつば）

・合鴨農法という言葉は知っていましたが、どのようなものかは知らなかったのが、今回農家の方から話を聞

き、実際の作業をしたのでよく理解できました。ネット張りも、テグス張りも慣れないうちはかなり苦勞をしました。これらの作業は全部手作業でやる必要があるのが、有機農法は手がかかることを実感しました。また、合鴨の成長と苗の成長を合わせることが成功の秘訣と聞き、その難しさをさらに実感しました。合鴨はまだ小さく、田ではなく農家の庭先で飼育していたのですが、とても愛らしかったです。（東京、60代女性）



手作業でネットを張る

●「世代を越える作業に感無量！」水源地「たのめの里」春の森づくり（塩尻市北小野地区）



水源地を守る草刈り作業

・本格的な植樹を体験できてよかったです。「自分が生きている間に大きく育つかはわからないかもしれないんだなあ」との言葉が心に残りました。山仕事の大変さがわかりました。水は、蛇口をひねればいつでも得られるものかもしれませんが、その水がどのようにつくられ、私たちの元にやってくるのか、山の保全がその第一歩なのを実感しました。いま飲んでいる水は、先代の山仕事をしてくれた人々がいたからで、今回私たちが植えたもみじが大きく育ったら、後世の人へ、水をプレゼントできるのだな、と、世代を越える作業を体験できて、感無量です。継続して参加しようと思いました。（東京、50代女性）

●「鳥海山の姿に心癒され！」庄内柿の摘花作業（JA庄内みどり）

・柿木全体にびっくりするほど花が付き実がなりすぎるので、柿に栄養を集中させ大きくする為、摘果して立派な実を収穫するため、1枝に1つ残して他を取りました。摘果にあたり親指を使って実になる元を親指で押しとポロリと取れるのですが、それがとても難しかったです。今回は良く鳥海山が見えてその姿を見るたびに心が癒されました。収穫にもぜひ参加させていただきたいと思いました。（埼玉、70代男性）

★秋の夢都里路くらぶフェアのお知らせ♪

新規企画 「赤かぶの収穫」「赤かぶの漬け込み」（有）月山農場）  
日時：9月1日（土）13時～16時 場所：生活クラブ連合会（新宿区新宿）

企画への申込・問い合わせは、夢都里路くらぶ TEL:03-5291-6700 まで

次号発行予定 8/20ごろ